

## 米国東海岸都市の歴史建築物と美術館を巡る旅

浦野 勝雄

カナダのナイアガラと米国東海岸の大都市ワシントン、フィラデルヒア、ニューヨーク、ボストンにある歴史的建築物とフィラデルヒアを除いた都市の美術館を回るバックツアーに6月初め参加しました。参加者は14名で50代の自由業夫婦を除き60代70代の退職者夫婦でした。私は米寿記念に妻と参加、最年長でした。美術館巡りのバックツアーは初めての経験でした、現地ガイドさんが付き1時間から1時間半レシーバーを付け作品の説明を聞きながら見て回るスタイルです。各美術館は巨大であり、時間内で多くの作品を鑑賞するというのは困難です。今回は西洋絵画がメインでした。



ナイアガラ：カナダ滝 スカイロンタワーから

素晴らしい絵画が沢山あります。必然的に鑑賞より作品を眺めて、通過することになります。歳のせいかもしれませんが頭の隅に残るものは少なくなりました。各美術館で30分くらいの自由時間がありましたが、好きな陶器展示場へ行ったり、再度通過した絵画を見に帰ったりするには十分ではありませんでした。旅自体は面白く興味深い旅でした。いくつか旅の印象を書いてみます。

素晴らしい絵画が沢山あります。必然的に鑑賞より作品を眺めて、通過することになります。歳のせいかもしれませんが頭の隅に残るものは少なくなりました。各美術館で30分くらいの自由時間がありましたが、好きな陶器展示場へ行ったり、再度通過した絵画を見に帰ったりするには十分ではありませんでした。旅自体は面白く興味深い旅でした。いくつか旅の印象を書いてみます。

### 1 ワシントン

#### 1) スミソニアン航空宇宙博物館「月の石」

この博物館はご存じの方も多いと思います。私はこの博物館の展示物に前から興味があり一度行ってみたいと思っていました。飛行機、宇宙船の発達、進化状況等がわかり興味深い場所でした。また触れる「月の石」があるので期待しながら順番を待ちました。ごつごつした月の石を想像していましたので最初びっくりしました。ガイドさんが「月の石」と信じなくてはだめだといっていたことがわかりました。アポロ17号が持ち帰った月の石の一部で、三角形に薄くカットされ端溪硯の表面のように黒く輝いていました。想像した石とはかけ離れていました。月の石だと信じて触らせてもらいました。ツルとして、ガラスの表面を触っている感じでした。大気



無い月の表面ですから30から40億年も前に生まれた状態に近い石だそうで、触れたことに喜びと不思議な気持ちでした。玄武岩だそうです、磨く前の玄武岩からは想像できません。鉄分やマンガンを多く含んでいるため磨くと黒く黒曜石のようになるのだそうです。それにしても新聞、雑誌などに載る写真の石とは思えません。貴重な石のため、研究用にカットした石の一部かもしれませんが、博物館がなぜ、このようなサンプルを展示したのか知りたくなりました。できればカット前の原石の写真なども見せてもらいたかったです。

## 2) 国立美術館

フェルメール、ダ・ビンチ、レンブラント、グレコなどの有名人の教科書や美術書で見たような有名な絵画が沢山ありました。

フェルメールの絵は世界中で好きな人が多いようで人気のある絵です。ワシントンには「手紙を書く女」「天秤

を持つ女」「赤い帽子の女」の展示がありました。ニューヨークのメトロポリタン美術館は5点収蔵しているようですが「水差しを持つ女」「少女」を見ました。ボストン美術館ではみませんでした。昔オランダへ行ったときに「真珠の耳飾りの少女」「ミルクメイド」を見た記憶があります。「手紙を書く女」「天秤を持つ女」「水差しを持つ女」「ミルクメイド」はたぶん同じ部屋で同じような構図で書かれています。女性の服装も似ています。それぞれの女性の雰囲気も似ていると私は思いました。同じような絵でも見る人を引き付ける何かがあるようです。

ガイドの解説を聞きながらの鑑賞ですので、じっくり見たという実感はありません。

天秤を持つ女性は何を量っていたのだろうか。薬の調合にしては他の器物がありませんし、宝石か真珠かもしれないがわかりません。又は単なるモデルとして画家にいわれるように立っていたのかもしれない。なんだか女性は気のないような顔つきをしている様に私には思えました。



フェルメールの「天秤を持つ女」

## 3) ホワイトハウス



バリア越しのホワイトハウス

ホワイトハウスも見学の対象になっていましたが、時世柄警備が厳しく近寄れません。遠くの道路から、ちらっと見ることに変更になりました。

新聞、TVなどでよく載ったり、放映されたりしますので全容は想像できますが残念でした。大統領警護は厳重です。ワシントン市の上空は一切飛行物体禁止だそうです。

飛行機、ヘリコプターなどは飛べないので我々もロチェスターから隣接都市の飛行場へ着陸し、バスでワシントンへ入りました。ワシントン上空を飛ぶ物体はすぐに撃ち落とされるとガイドさんは言っていました。

#### 4) ワシントンの反射池について



ワシントン独立記念塔とリンカーン記念堂の間にある池は「リフレクティング・プール(反射池)」と呼ばれています。2026年6月初旬、丁度ここを訪れたときこの池の底を青く塗装して最後の仕上げをしているようでした。

トランプさんが青くしろと命令したそうで、かつ巨額の経費(日本円にして 23 億 7000 万円)を使って個人的な趣味で変え、業者の選定に問題があると物議をかもししていると、地元ガイドさんが言っていました。ところが6月28日のNHKニュースで、改修したはずの池が緑色の藻に覆われ、塗ったペンキがはがれて浮いている画像が放映されました。一か月もたたないうちになぜと驚きました。トランプ大統領は破壊行為により壊されたと言っています。自転車でサイクリング中に立ち寄り池を見ていた青年が捕まったと報道されました。この池を破壊した人は懲役10年だと、トランプ大統領は言っています。トランプ大統領はイランとの戦争中でもあるのに、何か目的があったのでしょうか、こんな小さなことにも関心があることに驚きました。

反射池 作業中 池に作業車が入っている  
池の底は青くなっています  
リンカーン記念館前より撮影

## 2. ニューヨーク

### 1) ハイドパークの5番街にあるメトロポリタン美術館(MET)

#### (1) テンドール神殿



入り口近くにエジプトより送られた、テンドール神殿が鎮座しています。エジプト大地の上に建っていればもっと素晴らしく見えるのですが建築物の中にあると単なる石の構造物に見えてその貴重さがわたくしには感じられませんでした。

この美術館もゴッホの「自画像」「糸杉」、フェルメール、モネの『睡蓮』『睡蓮の池にかかる橋』など多くの画家の絵画が展示されています。地元ガイドさんの説明を聞きながら一見し通過しました。

館内のテンドール神殿

## (2) エジプト展示室 中王国墓より出土したカバの焼き物



一つ気になった焼き物、体長が 20cm ほどのブルー釉薬がかかったように見えたカバ像です。ガイドさんの説明によるとシリコンと食塩の釉薬を使用した焼き物だと言っていました。

紀元前 1900 年代から 1800 年代にこのような焼き物あったとことに大変驚きました。詳しいことはわからないということで、調べてみました。

これはエジプト・ファイアンス陶器といって、粘土ではなく、石英粉末とアルカリ成分をまぜ、有機物バインダーを使用して焼いた陶器だそうです。日本の大学でも再現に成功しているようです。この材料に鉍物を混ぜると緑になったり、青くなったりすると資料に記載されています。この焼き物は全く知りませんでしたので、新鮮で大きな驚きでした。

カバは胴にハスの花の絵があります。ナイル川沿いの湿原の王者であり、権力者の象徴であったそうです。

エジプトのファイアンス陶器 カバ像  
BC1981 年～1885 年 中王国 第 12 王期  
メイール・センビの墓出土

## (3) 自由の女神像



アメリカの象徴である自由の女神です。独立 100 周年を祝って 1886 年フランスが送ったものです。解説によると彫刻家バルトディが「民衆を導く自由の女神」と自分の母親をモデルにデザインしたと言います。設計はエッフェル塔を造ったエッフェルも関与していると言います。像は 46m、台座を含めると 93m です。

冠の 7 つの突起は 7 つの大陸と 7 つの海を表し自由と平和を表す「世界を照らす自由」が正式名称だそうです。

オバマ大統領が世界の警察官ではないと宣言して以来、現トランプ大統領もアメリカの基本的精神をどう考えているのでしょうか。私もイランとアメリカの戦争中に旅して、複雑な気持ちでリバティ島を散策しました。

オバマさんが大統領になった時、私は丁度ナイジェリアに滞在していました。アフリカの人々が我がことのように喜んでいました。その後彼らの白人に対し少し自信を持ち態度・考え方も変わってきたように感じました。この時世界が良くなれば良いなと思っていましたが、どうも期待が外れそうです。

自由の女神像の前で

### 3. ボストン

#### 1) ボストン美術館

##### (1) モネの「着物をまとうカミューユ」



着物をまとうカミューユ

ボストン美術館は日本の美術品が多くあります。収蔵品の20%は日本の作品だそうです。

今回日本美術品は時間の関係でみることができませんでした。ガイドさんは西洋絵画をメイン主に説明してくれましたがこの美術館も前者と同じように歩きながら説明を聞き、絵画の前を通り抜ける鑑賞でした。写真はモネの「着物をまとうカミューユ」です。モデルはモネの奥さんで髪の毛は本来黒髪であるが、わざわざ金髪にしたそうです。

この絵どこかで見た記憶がよみがえってきました。どこで見たのかなと考えていたら、同行の人が教えてくれました。この作品は世田谷美術館で12年前に(2014年6/28より9/15)に開催された「ボストン美術展」で展示されたものでした。意外性のある絵であったので、頭の隅に残っていたようです。

この絵の隣に「カミューユと子供」の絵が展示してありました。花の前で編み物か何かをしている黒髪の奥さんと子供が描かれています。

##### (2) ミレーの「種まく人」



ボストン美術館 「ミレー」 種まく人

ミレーの種まく人もありました。日本の山梨県立美術館にもあります。なぜ同じものがあるのか不思議でした。山梨のものは数十年前に見ましたが細部は覚えていません。二つを図録などで見てみると微妙な違いがあります。特に手先の指がボストンのものは鮮明に描かれているように見えるし、左肩から下げている布の形などが山梨のものは少し違うようです。

なぜ画家はこのような同じものを描いたのか、不思議に感じました。画家は描いたとき、どちらかのものは気に入らず修正したのだろうか、などと思いました。

昔フランスのルーブル美術館で有名な絵の前で、真剣なまなざしで模写していた画学生が浮かんできました。

## 2) ハーバード大学見学

大学構内が観光ルートになっているのも驚きでした。昔イギリスで観光バスに乗った時、走りながらここがオックスフォード大学ですと紹介されたことがありましたが中へ入りませんでした。



ハーバード大学図書館  
左の男性がガイドさん

構内は卒業式が終わった後の設備がまだ校庭に残っていました。式典は図書館前の野外で実施されたいとガイドさんが言っていました。仮設の電線、大木に飾られた旗類がそのまま風に流されていました。ガイドの説明によると、新入生は全寮制で寮が17棟あるそうです。2年生以降は別の特徴ある寮に入り、特に寮から卒業した成功人（有名人）がいた寮は人気があり、寮費も違うといえます。寮の先輩・後輩のつながりが強く、新入生はそのつながりを求めて自分の寮をきめると言います。有名人の中にはあえて、誰も入りたくない寮に入る人もいたといえます。寮ごとに費用も違い、食事も違うとガイドさんは言っていました。日本と考え方と違うところだと感じました。

### ハーバード大学生協本屋

近くに大学生協の本屋があり、土産品も販売しています。日本の本屋と同じように、床から天井まで本棚にびっしり入っています。土産ものといってもペン類、ノートなどの文具がメインですが、外国製が多いようでした。

## 追記

感想文を書いているときにフェルメールの「真珠の首飾りの少女」が日本に来るというニュースが入りました。オランダ ハーグにあるマウリッツハイス美術館のフェルメール作品が大阪中之島美術館で8月21日より開催される「フェルメール展」で展示されるそうです。昭和シェル社友会の人には縁の深いハーグの美術館ですからすでに見た人も多いと思われます。私も退職後アフリカからの帰り飛行機の待ち時間を利用してアムステルダム国立美術館に二度ほど行きました。